

地域計画

策定年月日	令和7年3月27日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	大田市 (322059)
地域名 (地域内農業集落名)	野城地域 (上野城)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	14.2 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	14.2 ha
② 田の面積	13.0 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	1.2 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.3 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.3 ha
(参考) 区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・圃場整備地は、地域の担い手である農業生産法人百姓天国に農地集積を終え、若手オペレーターが確保できたが、安定した営農活動を進めるためには、次のオペレーターの確保が必要。
- ・周囲を山林に囲まれていることからイノシシの被害が深刻であるほか、サルやシカの進出が懸念される。
- ・加工品に関する加工技術の向上や通年稼働、労働対価の確保に努めていきたい。
- ・若手リーダーの育成や地域外人材の発掘と招聘が必要。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・圃場整備による生産コストの削減や対応するスマート農業技術による、除草の効率化、有機水稻や特別栽培米の生産拡大による収益の拡大を図る。また女性部を中心にこれらを原料とする加工品の製造を進めるとともに、収益の確保に向け販路拡大について引き続き取り組みを進める。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・農地中間管理機構への貸付を進めるとともに、(農)百姓天国への農地の集積・集約化を終えた。水稻の生産を基本としつつ、有機JASエリアの拡大を進め、有機水稻生産の拡大及び有機野菜の生産農地も検討する。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	97.8	%	将来の目標とする集積率
			97.8 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・担い手が利用する農地面積の団地数は9団地。担い手の育成を図るとともに、団地の統合と集約化を進める。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
・農地中間管理機構を通じて、引き続き(農)百姓天国を中心に集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方法
・圃場整備を終えたエリアを中心に、地域全体を農地中間管理機構に貸し付けるとともに、(農)百姓天国に集積を終えた。その他の農地は、農業委員及び農地利用最適化推進委員と調整し、利用等を検討する。
(3)基盤整備事業への取組
・次世代への承継に向け、畦畔管理の省力・軽労化に向けたラジコン草刈り機の活用、自動給水システムや水田環境データ監視センサーの設置、農業用ドローンの導入、法面の緩勾配化などを進める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
・農繁期に活動する主任オペレーターのほか、補助作業員と加工作業員を雇用している。主任オペレーターは63歳であるが、補助作業員や加工作業員は高齢化が進んでいる。構成員の後継者や退職予定者、Uターン希望者などに対し農業の楽しさを伝えるとともに、多面的機能支払活動等を通じての声掛けを行うことにより、地域内外からの後継者確保に努める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
・耕作者や圃場の状況等を確認しつつ、必要に応じて労力軽減につながる作業や必要な機械を持たない作業を中心に活用の検討を進め、営農活動の維持に努める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

①地域による鳥獣被害対策を実施する。イノシシやサル、シカ対策として侵入防止柵や電柵の設置を積極的に進めるとともに維持管理に努める。また、誘因作物の排除に努める。
②有機水稻等など付加価値の高い農業生産の生産維持と面積拡大に取り組む。
③水管理の自動化や栽培管理のデジタル化、畦畔除草ロボットの導入と活用を続ける。
⑦地域環境の保全については、中山間地域等直接支払や多面的機能支払を活用し、維持管理を図る。
⑧生産作物の多様化を進めるとともに、新たな農業施設や機械の導入を進める。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	1	水稻・野菜	13.9 ha	— ha	水稻・野菜	13.9 ha	— ha	1	
利用者	2	水稻	0.32 ha	— ha	水稻	0.32 ha	— ha	2	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	2経営体		14.18 ha	0 ha		14.18 ha	0 ha		

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--